



## 茶話会 Q&A

富坂聰氏

2022年11月15日 15:20～16:50 於：2F ペガサスルーム

記録：本多幸吉

### 第131回講演『習金平は本気で台湾侵攻を考えているのか』に続く茶話会 Q&A 要約

11月15日に開催の講演に引き続き行われた茶話会でのQ&Aを報告します。

Qは聴講者中の質問希望者、Aはジャーナリスト・拓殖大学海外事情研究所教授 富坂聰氏による発言を要約したものです。

#### Q1: 集団的自衛権の拡充は「台湾有事」にプラスとなるか？

A1: (1) 抑止力でどこかの国を押さえ込むことは考えない方がよい。

(2) 「力を持ったとき、それをどう使うのか」の議論がなされていないのが心配。力の行使よりも外交で有事にさせないことが重要。力を持っていると行使せざるをえなくなる。「戦争」の反対は「外交」、「平和」の反対は「混乱」。戦後日本では70年の平和の中で「軍隊がないから弱い」との発想を持ちやすくなり、

外交を過小評価するようになった。両大戦間の西欧の軍縮を日本は見誤った。最近の日本の報道には「日本は米中の橋渡し役に」との論調が多いが、日経主催の「アジアの未来」シンポジウムで、マレーシアのマハティール元首相は「米中の争いに巻き込まれたくない」と発言。(筆者注：「IPEFから中国を外すのはよくない」とも発言)。シンガポールのリー・シェンロン首相は「日本はまず歴史認識問題を解決すべきだ」と進言。一方、シンガポールマレーシア、インドネシアの国防大臣は「中国と仲良くしたい。日本が中国と喧嘩して何がよいのか？」と発言。(3) 防衛力強化といっても日本が欲しいものは買えず、アメリカが売りたいものを買わされる。



#### Q2: TPPに中国は入るつもり？

A2: 台湾との同時加盟はありうる。実利上の存在意義は疑問。「中国外し」への牽制球ではないか。

#### Q3: 中国で政治闘争に、なぜ反腐敗・汚職が用いられるのか？ 腐敗・汚職は中国のDNAか？

A3: 中国の場合、地方官吏には権力をカネに変えるという汚職が染みついている。汚職は中国人のDNAではない。南米・ロシアにも汚職がある。規律・反汚職は中国共産党軍にとり国民党軍との差別化のために必要であったから、今に始まったことではない。現在の共産党も「腐敗をなくさなければ経済発展はない」と認識している。

#### Q4: (1)ゼロ・コロナ政策は継続するのか？ (2)「20回大会での習近平発言では、経済発展より安

全保障の方を重視している」と日経やワシントン・ポストで報道されているが。

A4: (1) 日本では中国のゼロ・コロナ政策に対する誤解がある。中国にとり、これは選択肢の一つでなく、「一択」である。なぜなら、医療資源は網の目のようにあるのではなく、都会にしかない。以前、医療機関による結核医療ができず薬を飲み続けさせた結果、どの薬も効かない結核菌が出てきたという経験がある。また SARS の教訓もあり、弱毒化の確証なしに、ゼロ・コロナ政策を解けない。ただし、「運用をもっと柔軟に」との要望に応えるべく、新たな基準が考えられているらしい。



(2) ワシントン・ポストの記事は典型的な西側の見方を示している。改革・開放路線を変えることはない。「発展がすべてに優先する」と習近平が繰り返し言っている。天安門事件の時、「自由を取り上げた中国はつぶれるのでは」と私は思ったが、その後の経済発展で豊かになった国民の幸福度は上がった。共産党はこれを成功体験と見ている。

Q5: 「習近平辞めよ」の横断幕を張った人がいるが。

A5: 反対勢力は必ずいる。上海ロックダウンに対する不満のようなジワッとした不満の方が、習近平にとって怖い。習近平の人気の高いわけではないので、「景気をよくしてくれ」との期待をなおざりにすると、人気は更に落ちる。大混乱はないだろう。

Q6: 「米中対立は 10 年で終わる。中国の人口ピークが終わり高度成長も減速するから」と言っているアメリカの地政学者いるが。

A6: エマヌエル・トッドも同じことを言っている。人口減少率が上がっても分母は大きく、アメリカにとってロシアよりずっと目障り。技術は中国がアメリカを凌駕し、米中対立は深まる。経済成長への期待は「一帯一路」による広域経済。

Q7: (1) 中国経済発展の原動力は？ (2) 習金平はなぜ台湾に固執するのか？

A7: (1) (i) 良質・安価な労働力。2007 頃からの労働契約法で賃金を上げる方向にはある。(ii) 第 2 次、第 3 次産業の比率を変える長期戦略。(iii) 国が音頭をとれば、自力でやってしまう技術力、例えば原爆、GPS Station など。半導体はまだだが、外国から買えなくなると自分でやってしまうだろう。(2) 固執というより、「統一しなければ完全体でない」「侵略された歴史に空白が残っている」「力は逆転したが、共産党と国民党の戦争は終わっていない」との認識。アメリカを超えない限り台湾をとれない、として国産戦闘機も世界水準にした。アジアにとり不幸だ。同じ金をアジアの経済発展に使った方がよい。

Q8: 海南島の今後の発展は「買い」か？

A8: 観光・不動産は伸びるから、「いける」。香港に取って代わることができるかは疑問。香港経済はだめになっているので、珠海、深圳、広東省を含めた Greater bay 構想で香港を持ち上げる構想がある。香港には広東省が背後にあるが、海南島の背後には何があるのか？ 中国東北部から海南島への移住が多く、東北部の人口減少の一因となっている。



**Q9: 中印関係はどうなる？**

**A9:** アメリカにとってと同様に、中国にとってもインドを仲間に引き入れることは大事。だが、インドは自国への最大利益を求める。インドはトルコと同じように、米ロ両方から戦闘機を買っている。中国はインドを仲間に入れるのは諦めており、BRICS 枠内にとどまり、敵にはならないでほしいとの立場。チベット問題で中国はインドを忘れない。パキスタンを手放さない中国としては、インドとの関係は維持。200 人の死者を出した中印殴り合い戦争もコントロール下に入った様だ。



**Q10: 日本は外交がなぜ下手？ 高めるためには？**

**A10:** 理由は、(i)自分で考えることを放棄。(ii) アメリカが日本の外交を握っている。(iii) 敵が一つというはっきりした冷戦構造は対応が易しかったので、マルチの敵への対処の仕方が教育されていない。(iv) 官僚の気質は国家のことより、政治家に好かれることが第一。安倍政権後、人事が政治に握られてから特にひどくなった。一度ある外務官僚から「中国をぎゃふんといわせるような言葉はないか」と尋ねられて驚いた。私の答えは「いくらでもありますが、喧嘩になったらどうするのですか?」。それ以来、その人から声がかからなくなった。(v) 人・国は「信用」でなく「利益」で動くのに、日本は「信用したがる」。(vi) インテリジェンスが育っていない。政治家にインテリジェンスから情報が上がってきても「聞きたくない情報」になってくる。選挙に使えないから。

**Q11: 日米地位協定を何とかする方法はないか？**

**A11:** おかしいと思わなければいけない。怒らなければいけない。でも、選挙の票につながらないので政治家に期待しても難しい。

以上 (参加者 21 名)



講演会場風景 (スターホール)